

よしだ

文化会館だより

No. 97

2008. 9. 1

平和と人権を考える集い

笠岡市平和祭 笠岡市人権教育講演会

7月25日、市民会館大ホールにおいて、約600人が参加し、『平和と人権を考える集い』が開催されました。これは、笠岡市非核平和都市宣言啓発実行委員会の主催による『笠岡市平和祭』と笠岡市・笠岡市教育委員会・笠岡市人権教育研究協議会の主催による『笠岡市人権教育講演会』が合同で行われたものです。

二度と

繰り返してはならない



▲実体験に基づき原爆の恐ろしさを語る
土屋圭示さん

『笠岡市平和祭』では、「ピカドンの恐ろしさを体験して」と題し、笠岡市非核平和都市宣言啓発実行委員会委員長の土屋圭示さんが語り部として、原爆の被爆体験を語りました。土屋さんは、実体験に基づいて描いたスライドを使用しながら、原爆が落とされた瞬間の様子、焼け野原となった広島島の姿、毎日何十人もの人を串った話や、放射能を含んだ黒い雨の話など、当時の悲惨な状況を克明に伝え、二度とこのようなことがあつてはならないと平和への強い願いを語りました。

はつきりNOと言えること 戦争が嫌だと言えること

続いて、「被爆地、長崎を訪ねて」と題し、笠岡市立真鍋中学校のみなさんが、平和学習発表を行いしました。みなさんは、修学旅行で訪れた長崎の写真と「原爆を許すまじ」、「平和の詩」などを交えながら、一

瞬にして多くの人の命を奪い去り、63年以上経過した現在でもなお人々に深い苦しみを残す原爆の恐ろしさについて学習した結果を一人ずつ発表しました。その中で、戦争を知らない世代だからこそ、自ら進んで学び、戦争は嫌だという意志をはつきり示すのだという強い決意が述べられました。



▲▶学習の成果を発表する
真鍋中学校のみなさんと
発表中のスライド写真

